

## アルカーイダと ISIS テロ集団を創ったのはアメリカ

【訳者注】この論文は、2014年9月にすでに発表されたものである。この問題は何度もここで取り上げられているが、念を押す意味で再び取り上げた。9・11とともに、こんな話は信じ（たく）ないという日本人が多いだろう。アメリカがそんな馬鹿なことをするはずがない？ ではアメリカを信じたまま、万一、文字通り万が一だが、集団的自衛義務の範囲が広がって、わが自衛隊が中東で戦うはめになったとしよう。そのとき我々が ISIS を「人類共通の敵」だと信じて、撃ち殺したとしたらアメリカはどう言うだろうか？ 彼らは「おいおい、うちのムスコに何をやるのだ！ 空気を読め！」と怒るだろう。これはそういう話である。

By Garikai Chengu

Global Research, May 20, 2015

アルカーイダと同じく、「イスラム国」(ISIS) もアメリカ製であり、石油の豊かな中東を分割して統治し、この地域で影響力を強めているイランを抑えるために考え出された、テロリズムの道具である。

アメリカが、テロリスト集団を支援した長く熱い歴史をもっているという事実に驚くのは、ニュースは見るが、歴史を無視する人たちだけである。

CIA が最初、イスラム過激派と組んだのは冷戦時代だった。そのころアメリカは、世界をやや単純化して見ていた。一方には、ソ連および、アメリカがソ連の道具と見た第三世界ナショナリズムがあり、他方には、西側諸国と、戦闘的で政治的なイスラム教徒がいて、アメリカはこれをソ連に対する戦闘の同盟者と見ていた。

ロナルド・レーガンの下で国家安全保障局 (NSA) 長官だった William Odom 将軍は、最近こう言った——「どの点から見ても、アメリカは長いことテロリズムを用いてきた。1978 - 79 年間に、上院は、国際的テロリズムを禁止する法律を通そうとしていたが、テロのどの形においても、アメリカは引っかかるだろうと法律家たちは言った。」

1970 年代に CIA は、エジプトの「ムスリム同胞団」を盾に用いて、ソ連の拡大と、アラブの大衆間にマルクシズムが蔓延するのを防ごうとした。アメリカはまた、インドネシアのス

カルノに対して、公然と **Sarekat** イスラムを支持し、パキスタンのアリ・ブットに対しては、**Jamaat-e-Islam** テロ集団を用いた。最後に忘れてならないのはアルカーイダである。

忘れないでいただきたいが、1980年代にオサマ・ビン・ラディンを産み出し、彼の組織を養い育てたのは CIA であった。元英外務大臣 **Robin Cook** は下院で演説し、アルカーイダは間違いなく西側の情報局の生み出したものだと言った。クック氏は、**Al Qaeda** とはアラビア語で“データベース”の短縮形を意味する言葉で、元々は何千というイスラム過激派のコンピューター・データベースだった。この過激派は、アフガニスタンのロシア人を敗退させるために、CIAによって訓練され、サウジアラビアから資金を与えられていた。

アメリカのアルカーイダとの関係は、常に、愛憎表裏をなす関係である。特定の地域の特定のアルカーイダ・テロ集団が、アメリカの利益の役に立つか否かによって、米國務省はそのテロ集団を支援したり、攻撃対象にしたりする。アメリカの対外政策立案者が、ムスリム過激派を敵と宣言したときでも、彼らは承知の上で、彼らを対外政策の武器として温存している。

「イスラム国」は、アルカーイダと同じように、確実にバックファイアしてくる最も新しく経験した武器である。最近、**ISIS** が国際的な注目を浴びるようになったのは、その殺し屋どもが、アメリカのジャーナリストの首刎ねを始めてからである。現在、このテロ集団は、連合王国ほどの大きさの地域を支配している。

イスラム国が、なぜこれほど急速に成長し、盛んになったかを理解するためには、この組織のアメリカ援助の起源を調べなければならない。2003年のアメリカによるイラク侵略と占領は、**ISIS** のような過激スンニ派集団が、根付くための前提条件をつくった。アメリカは、まずいことに、サダム・フセインの世俗的国家機構を破壊し、圧倒的にシーア派の政権に置き換えた。アメリカの占領は、自由市場という魔法の手が雇用をつくり出すだろうという素朴な希望によって、社会主義を排し工場を閉ざしたことで、スンニ派地域に広大な失業をつくり出した。新しいアメリカ援助によるシーア派政権の下で、スンニ派の労働者階級が何十万という職を失うことになった。政権交替後でも財産を保持することを許された南アフリカの白いアフリカ人とは違って、上流階級のスンニ派は、組織的に財産を没収され、政治的な影響力を失った。宗教的統合と一体化を推進するどころか、アメリカのイラク政策は、宗派の分裂をなお一層悪化させ、スンニ派の不満を増大させる広大な土壌を作ってしまった。そしてそこから「イラクのアルカーイダ」が出発したのである。

「イラク・シリア・イスラム国」(**ISIS**) は、かつては違う名前——「イラクのアルカーイダ」——だった。2010年以後、このグループは名前を変え、その努力を再びシリアに集中

させた。

シリアで戦われている戦争は、本質的に言って3つある。一つは政府と反乱軍、もう一つはイランとサウジアラビア、更にもう一つはアメリカとロシアである。この第三の戦争、ネオ冷戦こそ、アメリカの対外政策立案者をして、シリアのイスラム反乱軍に武器を与えるという冒険を犯させたものである。なぜならシリアの大統領、バシール・アル・アサドは、カギ的なロシアの同盟者だからである。ばつの悪いことに、このシリアの反乱軍というのは、その多くが ISIS の殺し屋だったことが、今や判明した。彼らは公然とアメリカ製の M16 ライフル銃を振り回している。

アメリカの中東政策は、石油とイスラエルをめぐる動いている。イラク侵略はある程度、ワシントンの石油に対する渴きを癒した。しかし今行われているシリアの空爆と、イランに対する経済制裁は、すべてイスラエルに関係している。その目標は、イスラエルの隣国の敵であるレバノンの「ヒズボラ」とパレスチナの「ハマス」から、決定的なシリアとイランの援助を奪うことである。

ISIS は、単にシリア政府を倒すために、アメリカが用いているテロの道具であるだけではない。それはイランに圧力をかけるためにも使われている。

イランが他国を侵略したのは 1738 年が最後だった。1776 年の独立以来、アメリカは 53 件以上の軍事侵略と遠征を行っている。西側メディアの戦争ラッパの宣伝にもかかわらず、イランは明らかに、地域の安全への脅威などではない。脅威はアメリカである。2012 年に公表された「情報レポート」は、16 のアメリカ情報局すべてが確認しているものだが、イランは 2003 年に、核兵器プログラムを中止したと言っている。実際は、現実にも想像上でも、イランの核の野心などというものは、アメリカのイランへの敵意の生み出したものであって、その逆ではない。

アメリカは ISIS を 3 つの方法で利用している：——中東の敵を攻撃するため、海外でのアメリカの軍事介入の口実として利用するため、そして国内では、作り物の国内脅威を煽るため、この 3 つ目は、前代未聞の侵略的国内監視の拡大を正当化するのに利用されている。

政府の秘密と監視を、ともに急速に強化することによって、オバマ氏の政府はその市民を監視する能力を増大する一方で、市民の政府を監視する能力を低下させている。テロリズムは、民衆の反乱に備えて大衆監視を正当化するための口実である。

いわゆる“テロとの戦い”は、その正体を見破らなければならない。それは、危険なほどに

膨張した米軍を維持するための口実である。米外交政策体制における 2 つの最も強力なグループは、米中東政策を指令するイスラエル・ロビーと、もう一つは、前者のグループの行動から利益を得ている、軍 - 産共同体である。ジョージ・W・ブッシュが 2001 年 10 月に“テロとの戦い”を宣言して以来、アメリカの納税者の肩にかかってきたのは、ほぼ 6 兆 6000 億ドルのカネと、数千の若者の命である。しかし戦争はまた、ワシントンの軍エリートのために、数十、数百億ドルを掻きこんでいる。

実は、「公的公正センター」の最近の研究によれば、70 以上のアメリカの会社と個人が、過去 3 年の、イラクとアフガニスタンの戦後の仕事の契約で、270 億ドルを手に入れている。この研究によれば、これら個人企業の 75 パーセント近くの従業員や重役が、共和党と民主党政権の行政府、連邦議会、または軍の最高レベルで、勤務しているか、もしくはそれに緊密につながっていた。

1997 年、ある米国防省の報告がこう述べた——「このデータは、アメリカの海外でのいざこざと、アメリカへのテロ攻撃の増加に、強い相関性があることを示している。」実を言えば、アメリカが“テロとの戦い”に勝てる唯一の方法は、アメリカがテロリストたちに、自分たちを攻撃する動機付けと手段を、与えることをやめたときである。テロは症状であり、中東における米帝国主義が病巣である。簡単に言えば、“テロとの戦い”がテロである。ただ、ジェット機やミサイルをもった人々がそれを行うときは、遥かに大きな規模で行われるだけである。(強調訳者)

(ガリカイ・チェングは、ハーバード大学の研究員、[garikai.chengu@gmail.com](mailto:garikai.chengu@gmail.com) によって接触できる。)